

アラカルト

育

水 医療

シニア

食

旅・趣味

スタイル

コレステロール論争に対して声明を発表した臨床研究適正評価教育機構の桑島理事長



コレステロールの数値が高いと動脈硬化が進み心臓病の危険性が高まるとの定説に対し、薬学者や栄養学者らでつくる日本脂質栄養学会が9月、「数値が高い方が長生きする」とのガイドラインを発表し異議を唱えた。日本医師会や日本医学会はこれに反

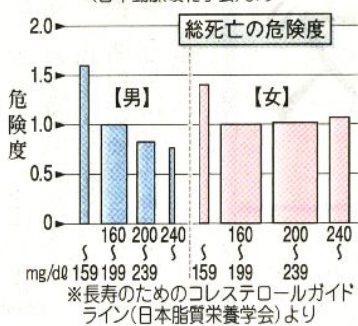
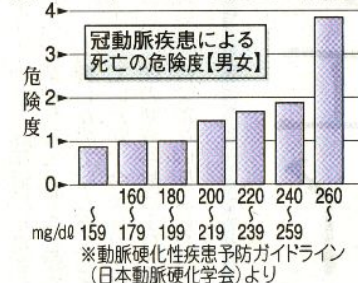
発。医学研究の中立的な評価を目指すNPO法人「臨床研究適正評価教育機構」も「一律の基準は好ましくないが、数値が高いと動脈硬化の危険性が高まることは多くの疫学研究で確認されている」との見解を発表した。

### NPOの桑島理事長 二つのガイドラインで見解

140以上で危険度増す

数値高い方が長生き

総コレステロールと死亡の関係



# コレステロールめぐり対立

る死亡の危険度は総コレステロールが高い方が増すと、悪玉コレステロールが「140」(血液1ミリリットルあたり140ミリグラム)以上で脂質異常症とする診断基準やガイドラインを発表した。

だが、高久史磨・日本医師会会長は「死亡の原因はたくさんあるのに、一つコレステロールを取り上げて結び付けるのは科学的な根拠がない」と批判、日本医師会とともに動脈硬化学会を支持する姿勢を表明した。

## 段階的な基準の普及が必要

## データ十分でない可能性

コレステロールは細胞膜などの材料になる脂質で、不要なコレステロールを回収する善玉と、動脈にたまって動脈硬化の原因となる悪玉とがあるとされる。一般的に総コレステロールが高いと悪玉コレステロールも高い傾向にある。専門医らで構成する日本動脈硬化学会は、旧厚生省が1980年から全国約1万人を追跡した調査や米国の調査などに基づき、心筋梗塞などの冠動脈疾患によ

す。コレステロールは細胞膜は、総コレステロールや悪玉コレステロールが高い方が低いと発表した。脂質栄養学会のガイドラインをまとめた奥山治美・金城学院大脂質栄養オーブンリサーチセンター長は「コレステロールと心臓病は関係がないというデータがたくさん出てきた。数値が低い方が総死亡率が高い理由は分からないが、数値を下げるほうがよい」と話

す。一方で桑島さんは「140」の基準を危険要因の少ない人や女性にも一律に適用することには反対する。実際、動脈硬化学会のガイドラインは一律の基準ではない。詳細な解説では、加齢(男性は45歳以上、女性55歳以上)や高血圧、糖尿病、喫煙など六つの危険要因と心臓病の経験があるかどうかで、悪玉コレステ

ということは世界的にも解決済みだ」と断言。脂質栄養学会のデータについて「肝臓病や慢性疾患のある人、栄養状態の悪い人などはコレステロール値が低く、早く亡くなる可能性がある。これらの人々を除いた可能性が非常に高い」と指摘する。